C.difficile トキシン B 遺伝子検査	8106200
	担当部署
C.difficile トキシン B	微生物

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*8.一般細菌→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*8.一般細菌→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		判定不能結果は、検体採取が不適切であったり、指示された検体採取方法や保管方法の逸脱、操作方法の誤り、検体のコンタミや検体中菌数が少なかったこ と等により生じる可能性がある。toxinotypeV である非 027 型（078 型に相当）のクロストリジウム・ディフィシル分離株が 027 型陽性と報告されることがある。測定 結果とその判定は、PCR リボタイピング試験の結果を直接提供しているものではない。従って、PCR リボタイピング試験では 027 型以外の型に判定される分離株（非 027 型分離株）の中には、本品によって 027 型陽性と報告される分離株がある。 最小検出感度近傍の場合、再試験に伴い検体が希釈 されることにより、結果が偽陰性となることがある。 感染微生物にゲノム突然変異、挿入、欠失あるいは転位が存在する場合、またはクロストリジウム・ディフィシル感染後、非常に早期に検査を実施した場合、偽陰性の結果となることがある。
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	該当なし
検体採取の特別なタイミング	特になし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	便	細菌 採便管	なし		
2					
3					

4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温 採取後直ちに提出
検体受入不可基準	1）検査ラベルがない検体 2）乾燥した検体
保管検体の保存期間	20～30℃で 24 時間 2～8℃で 5 日間

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	１～2
生物学的基準範囲	陰性（－）
臨床判断値	該当なし

基準値	単位	なし

共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		院内感染や市中感染として C. difficile 腸炎による症例が増加しており、積極的な検査体制が重要となってきている。健常者では約 10%が腸管内に常在し、抗菌薬投与者では 20%程度に上昇するとされる。C. difficile 感染症は加齢、重篤な基礎疾患などの患者が抗菌薬投与により腸管細菌叢の撹乱が生じ、C. difficile が定着・増殖する。 「臨床微生物検査技術教本　2017 年」